

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4391200054		
法人名	有限会社 真和会		
事業所名	グループホーム 諏訪の森		
所在地	熊本県上天草市姫戸町二間戸276-5		
自己評価作成日	平成30年1月20日	評価結果市町村受理日	平成30年3月28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do">http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 NPOまい		
所在地	熊本市中央区草葉町1-13-205		
訪問調査日	平成30年2月15日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ひとりひとりの生活リズムに合せ、以前の自宅生活と変わらないように支援しています。気候がいい時は苑外散歩を計画し1日のスケジュールに入れ提供しています。又季節を感じて頂けるようホールの壁紙作りや塗り絵を行っています。入居者様の残存能力が維持できる様努めています。入居者様、ご家族様の要望に出来るだけ応えられるよう努めています。他職種と連携を図り、入居者様が安全に安心して生活を送って頂ける様支援しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「サービスの成果に関する項目」の取り組みの成果に、自分たちができていないであろうと自己評価されている事は、利用者アンケートにも同じように表出されています。寝具等の対応変化などを引き金に、利用者、御家族への事前の説明不足もあるのか、管理者、職員は今までの信頼関係が崩れたように感じ、職員のマンネリとした意欲低下にも繋がっているようです。それでも、一人一人に沿った支援を心がけて努力する姿勢は感じ取れます。車等の備品が充実していないことも、管理者、介護支援専門員をはじめ、職員のチームワークの良さと柔軟な発想で利用者、ご家族の満足度向上につながる支援を期待します。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	1人1人の生活リズムに合せ、24時間安全で安心できる介護の理念のもとそれぞれに合せた支援を行っています。	介護度や重度化する利用者の変化の中で一人一人の生活リズムに合わせることができか、理念を実践できているか自問自答しながら、日々の業務にあたられているようです。	理念である、生活リズムに合わせることが、どういうことか今一度管理者、職員と共有する機会をもたれることも大切です。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地区行事の参加や町内行事の参加に努めている(秋の例大祭、文化祭、えびす祭りの参加、町内クリーン作戦)他の行事(清掃等)に参加できていない為、今後は参加していきたい。	自己評価にもあるように参加が少ないことを自覚されています。	今後も行事参加のみならず、地域の方々との日常的な自然な付き合いでつながっていくことを期待します。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	月1回のボランティアの受け入れは継続しているが、ボランティアの方が多忙の為来訪が少ない。運営推進会議のメンバーの方をおして認知症についてのお話をしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で事業所報告や研修会で学んだことの報告や地区の行事などの確認を行なっています。	利用者や行事、勉強会等の報告が運営推進会議で行われています。	寝具等の対応変化もあっているようです。事業所で提供するサービスに変更がある際なども活発な意見交換ができ、さらなるサービス向上につながることを期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に参加していただいています。又、疑問に思った事等は市役所職員の方がメンバーにいらっしゃいますので調べてもらい会議で話し合うようにしています。	運営推進会議に市町村担当者が出席されています。	介護保険制度改正など、疑問や不明なこともあることでしょう。今後も保険者である市町村との連携で、利用者のサービス向上になることを期待します。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は行っていないが、やむを得ず夜間センサーを使用したケースがある。又、身体拘束の研修を行い身体拘束のない介護に努めて行こうと思っています。	センサー使用時は書面での同意は得ておられないようですが、今後は直接的な身体拘束にあたらなくても書面で利用者・ご家族の同意を得ることを検討されています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待は行っていない。勉強会等で学ぶ機会を作っています。虐待が起らないよう今後も努めます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会で学ぶ機会を作り理解するよう努めています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時には、ご家族に説明し入居していただいています。入居後の相談もその都度説明し理解を得るよう努めています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族の面会時に、今の入居者様の様子を報告するよう努めています。	事業所で決定した寝具に関することや、持ち込み家電やそれに伴う電気代等々についてもご家族面会時や電話で意見を聞き説明する機会をもたれています。	事業所から提供するサービスが介護保険上どこまで妥当なのか、そのことを利用者、家族に説明・同意を得られることを期待します。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	申し送りや、月1回のミーティングなどで意見交換の場をもうけています。	管理者が現場の状況等を月1回法人事務長へ報告することや、職員アンケートが年2回実施され代表者が職員意見を聞く機会を設けられています。	職員意見を聞く機会は設けられていますが、代表者からのフィードバックが少ないようです。反映する機会や方法を検討されることも大切です。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	1日のスケジュールを作成している。また問題が発生した時はその都度相談を受けるよう心掛けています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年2回の研究発表会や月1回の合同勉強会に参加しています。又、外部からの研修も積極的に参加するよう声かけし促しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	多職種連携会議や合同勉強会に参加し情報交換や意見交換を行なうようにしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居者様からの相談はその都度聞く機会を作り又、そのことを職員間で話し合い統一した介護を提供できるよう努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	来訪時に声をかけ、相談や要望がないか尋ねています。要望は出来るだけ応えられるよう努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居時に本人の情報収集を行い、日中夜間の様子観察を行いサービスを提案しています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯たたみ、テーブル拭き等を行ってもらったり簡単な調理、味見や盛り付けを行ってもらっています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時に日頃の様子をお知らせしています。又、外出や外泊等の時は服薬の説明や、注意すべき点などを説明しご家族様との連携を図っています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人の面会は少ない為、来訪された時は又来ていただけるよう声かけしています。苑外散歩を行い新しい馴染みの関係が出来るよう努めています。	年齢を重ねることで、知人の逝去や利用者自身の変化で入居前の馴染みの関係が途切れていることも事実のようです。そのことをふまえながら、住み慣れたグループホームでの馴染みの関係作りを支援するように努められています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士の関係は上手く行っている。なんらかの問題が発生した場合は職員が間に立ち傾聴し支援します。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も様子を見に行く体制があります。お話する機会を作り柔軟に対応しています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者様より希望を聞き意向に添えるようにしています。本人から困難な場合はご家族様より伺うようしています。入居者様それぞれの疾患に合せた対応に心掛けています。	思いや意向を把握するように努められていますが、外出や買い物に行きたいといったことも多く、中々思いや意向に沿えていないことを、管理者や介護支援専門員は自覚されています。	事業所専用の車がないこと等、ハード面での厳しさはあるかとも思われますが、今後も管理者、介護支援専門員、職員で、できる事の工夫を検討していくことを期待します。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に本人又はご家族様に尋ねるようにしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活状態、心身状態の把握に努めている。ミーティングや申し送り時に職員で把握し統一した介護支援を行なって行けるよう努力しています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者様、その他関係者と話し合い担当職員が介護計画書を作成しています。	管理者が中心となり介護計画が作成され、アセスメントからモニタリングと一連の流れはあります。	長期目標が2年の計画など、現状に即しているかといえば疑問に思うこともあります。利用者、家族、職員との話し合いを深め、今後も介護計画が自立支援につながることを期待します。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日頃の様子や、変化があった時は記録するようにしているが、まだ不足部分が多々ある。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ニーズに対応できるよう、主治医や医療連携、他部署と連携し支援が出来るよう取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアや消防機関等の協力を得て、安全で安心して過ごしてもらよう支援しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医と連携を取り、適切な医療が受けられるよう支援しています。又、主治医の指示を受け専門医の受診が受けられるよう支援しています。	事業所により2か月に1回の定期受診や月2回の訪問診療を支援されています。受診時の検査結果など、御家族へは口頭報告がなされ、利用者個人ファイルに閉じられています。	受診結果などをご家族に書面等で報告することも検討されてはいかがでしょうか。
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携看護師に状態や、入居者様の希望等報告している。受診や訪看がスムーズに受けられるよう支援しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院関係者との情報交換や、情報共有に努め安心して治療が受けられるよう支援しています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	年に1度、ご家族様に確認している。又状態が変化した時などは再度確認するようにしています。	文書で確認するようにされています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成している。待機職員を置く等の話し合いは、ミーティング等で行っています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防訓練は行なっているが近隣の方や運営推進会議メンバー等の参加はまだありません。	定期的な消防訓練が実施され、近隣や運営推進会議メンバーへの参加依頼は行われています。	いつ、何が起こるかわかりません。起こらないかもしれません。事業所として、何かあったときはどうするか、最良と思える方法を利用者、家族と相談し、全職員が共有していることが大切です。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様への声かけや対応についてはまだ配慮が足りない。記録等の取扱いにも十分注意するよう職員に周知しています。	声かけ等についての配慮不足は管理者も自覚されています。	方言やため口等々、親しき中にも礼儀あり、利用者と介護者の関係、そのことを踏まえ対応していられることも大切です。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いや希望を表せる環境づくりに努め、自己決定が出来るよう支援しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その方のペースに合わせた支援・介護を行うよう努めています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出出来る方は馴染みの美容室に行かれるよう支援しています。困難な方は、散髪依頼を行い支援しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の食材を出来るだけ使用している。又味見や盛り付けをしていただいています。	季節の食材を地元から仕入れ、楽しみが多くなるよう外で食事する機会を設けられています。利用者の変化で今までできていた楽しみが提供できなくなるのではと、管理者は考えられています。	年齢が重なると同じようなやり方、対応では楽しむを提供することは難しいでしょう。一人一人にそった楽しむことの支援を検討していられることを期待します。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士が立てた献立を使用しています。摂取状況や摂取量を観察し記録しています。盛り付けや彩を工夫し楽しく食べてもらうよう工夫しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後個々にあった口腔ケアを行なっています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握し、トイレにて排泄が出来るよう支援しています。	オムツを使用し失禁が増えてきている方も、排泄誘導を行い、動くことで、筋力の維持向上につながっていると管理者は話され、定期的なトイレ誘導を心がけておられます。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェックを行い便秘予防に努めています。便秘になられた場合でも、主治医・看護師と連携し服薬等の指示をもらうようになっています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一日おきに入浴を提供しています。又季節に応じてしょうぶ湯やゆず湯を提供しています。	湯舟に入らずかかり湯だけの方もおられ、手すりを増やすことも検討中です。暖房設備だけでなく、浴室の湯気で脱衣場を温めたり等の工夫もされています。	安全・安楽にお風呂に入ることが出来る支援方法、楽しみのためのお風呂の入れ方や浴室の改善等を今一度検討される必要があるでしょう。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	休息や就寝は本人の希望に合わせて行っています。貸し出し用の寝具となりより一層、清潔に気持ちよく休まれるよう努めています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方された薬を把握し、目的や副作用は個人記録で確認するようになっています。又症状に変化がある場合には主治医や看護師に連絡するようになっています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎月の行事を計画し楽しみを持てるようになっています。又できる所はお手伝いさせていただきます。(洗濯物たたみ、テーブル拭き)		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	苑外散歩の計画を立て支援しています。又、天気がいい時は外で食事やおやつ等を計画して支援しています。	今年の初詣には近所の神社へ利用者全員が外出され楽しまれています。買い物支援や、行きたい所支援が、事業所専用車がないうことで支援しにくいと管理者、介護支援専門員は考えられています。	様々なハード不足は諦めず要望しながら、管理者、介護支援専門員、職員全員で日常的に一寸そこまで気分転換に外出できる支援方法を利用者、家族の思いをくみ取りながら、検討して実践していかれることを期待します。



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	必要な方は職員管理で預らせてもらっています。個別で収支ノートを作成し面会時に説明しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を希望された場合は随時行っています。又、家族の希望で文通の支援を行ないました。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共同空間は清潔に心掛けている。又ホールでは季節に応じた飾りつけを入居者様と作成し掲示するようにしています。	利用者の方が過ごすことが多い食堂から見えるベランダ越しの海が、生活感や季節感を演出しています。そのことを踏まえ食堂の共用空間づくりをされています。	ホールの壁一面に利用者の作品が掲示されていますが、掲示方法をあと一工夫することでもっと居心地良くなるのではないのでしょうか。ただ貼っている感が否めないのは残念です。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	それぞれ、思い思いの場所で過ごされています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には使い慣れた物や、好みの洋服などを待って来ていただいています。本人に確認しながら物の配置や片付けなど行なっています。	居心地よく過ごせるように清掃や掲示物等努力されています。また、持ち込みだった寝具はリースと変更されているようです。	要望に沿って持ち込み寝具等も検討されることも必要です。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	出来る事、分かる事を把握し自立した生活が送れるよう支援しています。		